

平成28年度第3回移動市長室会議録

(平成28年7月21日)

1 日 時：平成28年7月21日（木曜日）19時～20時55分

2 場 所：山家コミュニティセンター

3 出席者：

『山家コミュニティ運営協議会』

安武会長、平嶋副会長、平川副会長、木村事務局長、平田会計、理事、
専門部部長・副部長、主事会（25人）

『筑紫野市』

藤田市長、北橋総務部長、宗貞企画政策部長、檜木健康福祉部長、三上環境経済部長、
柴田市民協働推進課長、野坂秘書広報課長、栗原市民協働推進課係長、
森田秘書広報課係長、末吉秘書広報課主査、肥山市民協働推進課主事、
坂本山家コミュニティセンター館長、満生山家コミュニティセンター支援職員

4 内 容：団体の現状と課題などについての懇談

○（事務局） ただいまから平成28年度第3回、通算59回目の移動市長室を始めさせていただきます。本日の懇談は、お手元の次第のとおり進めさせていただきます。懇談の後半には、本日御参加いただいた皆様が発言できますように意見交換の時間を設けていますので、どうぞ忌憚のない御意見をよろしくお願いします。

なお、本日の懇談内容は、会議録を作成し公表します。撮影した写真は、市のホームページ、広報紙に掲載させていただきます。

それでは、初めに、藤田市長が皆様に御挨拶を申し上げます。

○（藤田市長） 皆さん、こんばんは。御紹介をいただきました市長の藤田陽三でございます。本日は、司会が申し上げましたとおり、第59回目になります移動市長室として、山家コミュニティ運営協議会の皆さんと懇談をさせていただくことになりました。

この山家地区での移動市長室は、第27回に一度、9区の公民館で開催させていただいたのが最初でございまして、山家地区では2回目ということになるかと思いますが、今回の場合は山家コミュニティ運営協議会の皆さんと共にということになっております。前回9区の場合ですと、地域サロン、サロンの皆さん方と非常に楽しく懇談をさせていただいた強い思い出が残っております。

なお、今回、安武会長をはじめ、役員、運営委員の皆様には、大変お忙しい中に御準備をいただき、まことにありがとうございます。

今日の懇談のテーマについては、「山家コミュニティ運営協議会の取り組み」として、各部会からの報告をお聞かせいただくことになっているようですが、御承知のように、今、我が国においては、全国的に少子高齢化の波が押し寄せてきており、今後は地域での支え合い、助け合いによる共助社会づくりが大きな課題となっております。

そのため市内7つのコミュニティ組織の設立を行っておりますが、山家地区におきましては、モデル地区としまして、先行してコミュニティ運営協議会を設立していただき、また、他の地区に先駆けて今後10年間の活動計画となる山家振興プランを策定していただくなど、他の地区の先導役として活動をしていただいております。

本日は、皆様方の取り組みをお聞かせいただきながら懇談をさせていただき、今後の筑紫野市のまちづくりに生かしていきたいとこのように思っているところでございます。是非とも、忌憚なき御意見をお聞かせいただきますようお願いいたしまして、私の挨拶と代えさせていただきます。どうぞよろしく申し上げます。

○（事務局） 続きまして、安武会長に御挨拶をよろしく申し上げます。

○（安武会長） 改めまして、こんばんは。お忙しい中、移動市長室に御出席いただきましてありがとうございます。また、藤田市長様を初め、行政の皆様も、この時間帯に合わせていただいて、まことにありがとうございます。

平成21年に市と地域とが協議され、筑紫野市地域コミュニティ基本構想が策定され、その基本構想に基づいて、モデル地区として山家地区において平成23年6月に、御笠地域が平成25年に、それから平成26年12月に基本構想で示された7つのコミュニティ区域が全て、コミュニティ運営協議会が設立されました。

山家コミュニティ運営協議会としましては、今市長が申されましたように平成23年に設立され、6つの専門部会を擁して5年が経過しております。その間の活動、今後の取り組みなどを含めて報告をするのは、藤田市長を初め、行政の皆さんにもどのようなことをしているのか、何を目指しているのかを知っていただき、あわせて御助言、御指導などをいただければと1番に手を挙げまして、本日の内容、時間帯を含めて提案させていただきました。

このような夜の時間帯をお願いしたのは、報告していただく各部の部長さん方が現役の方もおられますので、御迷惑を承知しながらも、お願いしましたところ、このように御理解、御協力をいただきまして、まことにありがとうございました。本日はよろしくお願い申し上げまして、挨拶に代えさせていただきます。よろしく申し上げます。

○（事務局） ありがとうございます。ここで、本日の参加者の自己紹介を行いたと思います。まずは市側から行います。私は、本日の司会を務めます秘書広報課の野坂です。

○（檜木健康福祉部長） 健康福祉部長の檜木です。どうぞよろしくお願いします。

○（北橋総務部長） 総務部長をさせていただいております北橋です。山家の23年発足当時に、関わらせていただいております。その後の歩みの中、楽しみに聞かせていただきたいと思います。

○（宗貞企画政策部長） 企画政策部長を拝命しております宗貞です。

○（三上環境経済部長） 環境経済部長をさせていただいております三上です。昭和54年に私、市役所に入りましたが、ちょうどこの山家地区の国土調査に携わらせていただいております。懐かしい思いがします。

○（安武会長） 運営協議会の会長を仰せつかっております安武です。今日はひとつよろしく申し上げます。

○（木村事務局長） コミュニティ運営協議会の事務局長を仰せつかっております木村です。

今まで3年事務局長をやっております。なかなか大変でございます。

- （平嶋副会長） 山家コミュニティ運営協議会副会長を務めております6区区長の平嶋です。
- （平川副会長） 同じく、山家9区区長でもありますし、運営協議会の副会長を務めます平川です。
- （平田会計） 会計をしております平田です。月、火、水が仕事をしていますので、支払い関係が木、金ということで、コミセンの方々、あるいは各専門部の方々の御協力、御理解をいただきながら、木、金で大体会計処理を行っておる状況です。
- （文化・スポーツ部長） 文化・スポーツ部長の丸田です。体育振興会も部長を兼ねています。
- （まちづくり部長） 神崎です。まちづくり部会の部会長をさせていただいておりますし、実はいろいろとちょっと今まで役を受けておりました関係で、財産区の議員とか認定農業者の関係、農業委員を含めまして、いろいろな形で市のほうには御迷惑かけておりました、今後ともよろしく願います。
- （防犯・防災部長） 防犯・防災部長をしております佐々木です。
- （環境部長） 環境部長を仰せつかっております西岡です。今日はいろいろ意見交換するのを、楽しみにまいっておりますので、よろしく願いをしたいと思っております。
- （健康・福祉部長） 健康・福祉部長の西永です。
- （子ども育成部長） 子ども育成部の部長をしております砥綿です。
- （市民協働推進課） 市民協働推進課の課長をしております柴田です。
- （市民協働推進課） 市民協働推進課の係長をしております栗原です。
- （市民協働推進課） 市民協働推進課の肥山です。
- （市民協働推進課） コミュニティセンター館長の坂本です。今年の4月から勤務させていただいております。皆さん方の御協力でどうにか勤務できているというふうに思っております。ありがとうございます。
- （市民協働推進課） 山家コミュニティセンター支援職員の満生です。
- （事務局） 秘書広報課広報広聴担当の末吉です。
- （事務局） 秘書広報課広報広聴担当の係長をしております森田です。
- （理事） 山家コミュニティ運営協議会の理事をしています松原です。それから、山家9区の公民館長をしています。

- （理事） 運営協議会の理事をしております柴田です。
- （理事） 運営協議会理事で山家1区の区長の宮原です。
- （理事） 山家2区の区長でございます山口です。
- （理事） 山家3区の区長で理事でございます福山です。
- （主事会） 今年から1区の主事をしております太田です。
- （主事会） 6区の公民館主事をしております森です。
- （主事会） 8区の公民館主事をしております太田です。
- （まちづくり部副部長） まちづくり部会副部長をさせていただいております石丸です。
- （防犯・防災部副部長） 防犯・防災部副部長の丸田博之です。
- （環境部副部長） 9区の主事の砥綿です。農業委員をしております。
- （健康・福祉部副部長） 健康・福祉部の副部長させていただいております山崎です。
- （子ども育成部副部長） 子ども育成部副部長をさせていただいております小林です。
- （事務局） ありがとうございました。それでは、活動報告です。山家コミュニティ運営協議会の活動、山家のコミュニティづくりについて御説明をお願いします。
- （木村事務局長） それでは、山家コミュニティ運営協議会の今までの活動を概略説明しておきたいと思えます。

まず、山家コミュニティ全体概要の御説明です。山家コミュニティ自体、会員数が世帯で管理しております約1000世帯、山家全世帯ですね。これが会員ということで、人口が大体2500名という会です。平成23年に発足しまして5年を過ぎております。

コミュニティの会議組織、これについては総会、これは最高議決機関でして、どこでもそうでしょうけども、総会それから役員会、運営委員会それと全体をプランニングする事務局会、それから専門部会、実行委員会といった会議組織を持っております。

総会自体は、代議員制でして、自治区から74名、それから専門部から12名ということで、トータル86名の代議員制度でもって総会を結成しております。役員会につきまして、これは安武会長を含めて23名という組織です。それから、当運営委員会については、これは役員プラスあと公民館主事さん、それから専門部、部長、副部長このあたりひっくるめまして43名で運営委員会をつくっています。

あとは、山家コミュニティづくりとして6つの切り口といたしましうか、ファンクションといたしましうか、このチャンネルごとにそれぞれ専門を設けております。文化・スポーツ部、それからまちづくり部、防犯・防災部、環境部、健康・福祉部、子ども育成部、

こういった6つの専門部を設けております。

主な事業の内容としましては、4大事業、これは既存の事業でして、夏祭り、敬老会、体育祭、文化祭、それぞれ古くからあるものを一応、4大事業と位置づけまして、山家コミュニティ全体で取り組んでいるという状況です。

その他に、催し物としては、春秋のスポーツフェスタ、市長さんよく来られていますので御存知かと思えます。このスポーツフェスタ自体は古くからやっています、もう30年以上続けているという状況です。

あと通学合宿については、これは今度6回目を終えたばかりです。7月にやっておりますが、終えたばかりというところです。

それから、成人式、これが、来年1月で3回目、それからいきいきウォークについても、これは健康づくり推進協議会のほうから継続したものでして、これも20年以上になるというものです。

あと広報活動としては、広報紙を出しております、お手元に配付をしておりますが、23号の発刊を数えました。今年は年4回発行しているのですが、もう段々オーバーヒートしてきまして、6回やろうということで、年6回の発行を行っております。

新たに、先ほど市長からお話がありましたけども、山家振興委員会、いわゆる山家振興プランを策定して、今から10年後を見据えた取り組みをやっていこうということで、この振興委員会を立ち上げたところです。これについては、住民参加型を目標にしまして、それぞれ10年あるいは10年以上かかるようなことについては、プロジェクトで取り組もうと、それから、6つの専門部それぞれ連携を組んで、例えばまちづくりと文化・スポーツが連携して何かやろうと、そういった連携の事業、それからあとは6専門部単独でやれるというものを、こういったものを短期、中期、長期に分けてプランを練って、今から発信しようというところです。

以上、概要を御説明申し上げました。続きまして、文化・スポーツ部のほうからです。

○（文化・スポーツ部長） 文化・スポーツ部の取り組みについて説明します。山家の文化面とスポーツ面を支えていく部会です。山家を元気にする部会ではないかと思っています。

まず、山家の史跡を守る会は、長崎街道の1つである山家宿の整備に力を入れています。郡屋、大庄屋の跡といった、山家が宿場町だったという古き思い出の跡地の整備や、これらを今後どのように活用していくかというのを模索中です。現在、草刈りや長崎街道の道しるべである標柱を、毎年10本を目標に新しく直したりして、現在14本立てかえてい

ます。山家9区から7区の駅から郵便局あたりまで新しくなっています。

山家追分音頭の継承は、今ぐらい、夏ぐらいから練習を始め、敬老会で披露し、山家宿まつりの支援とともに子どもたちも大名行列と8区の宿場跡を練り歩きます。大人から子どもまで踊れる追分音頭を目指して頑張っています。今年は11月13日の日曜日が山家宿まつりとなっています。こんなふうに8区の宿場町を練り歩きます。

山家の名物白おこわ、この白おこわの復活です。レシピはでき上がりました。かしわサミット、アクロス福岡でのPR活動も終わっています。今、山家宿まつりで小学校の子どもたちがふるまったり、文化祭での女性部のふるまいで食べることができます。もっと皆さんに山家の皆に根づいてくれるといいなと思っています。

次に、青少年育成事業です。伝統行事と食育をテーマに3年間活動してきました。それがBGレンジャーです。これが青少年ボランティア・夢づくり隊の活動へ移行しています。今、登録している中高大学生が30名います。通学合宿の支援、山家成人式の支援、敬老会、体育祭、文化祭、いきいきウォーク、これらの全ての行事に参加し、もっと山家を知ろうと子どもたち奮闘中です。

中でも通学合宿は、夕方、皆学校の部活が終わってバスで上がって来てくれます。1年生から6年生までの生活のお手伝い、お風呂の見守り、宿題、余暇の過ごし方、時間割のお手伝い、子どもたちにしっかりかかわってくれています。これが高校生、大学生になると生活面でのサポートもできてきています。区長会、主事会、地域のボランティア、そしてこの青少年ボランティアの夢づくり隊で、地域全体でかかわるすばらしい行事になってきています。

これは、白おこわの写真と、青少年ボランティアの中学生の女の子たちが夏祭りを手伝っているところです。あとは、山家のお宮の行事にかかわっているところです。こういうふうに小学生にかかわって、皆でお手伝いをしてもらっています。

これは、通学合宿の様子です。山家1区公民館で行っておりますので、皆バス通学です。1年生から6年生までお世話をしながら上って来ます。初日のそうめん流し、これにはたくさんのボランティアが来てくれます。第5回山家通学合宿の写真は、最後の日に皆が一人一人お楽しみ会を出し物をしている様子です。ここにも中学生、高校生が上がって来て、いろんな知恵を貸してくれます。

スポーツ面では、体育振興会を中心に、スポーツで心をつなぐという意味でも、現在行っている春秋のスポーツフェスタ、サマーペタンク、たくさんスポーツの行事をしていま

す。世代間の拡大、参加を呼びかけています。山家はいいところ、山家に帰ってきたいと思えるような地域づくりに貢献しています。以上です。

○（まちづくり部長）　続きまして、まちづくり部会から概要を御説明します。今までやってきました経過と今後のこととお話します。

まず、会員につきましては約20名おりまして、財産区から上がっているような人たちと、農業を主体としてやっておられる人たち、例えば畜産農家、野菜農家それから米麦農家に大規模農家、そういった方々を含めまして入っていただいております。

そういった中で、ほとんどが議論することが多かったのですが、最近になりまして、後ほど出てまいります、地域案内板をつくってみたりとか、ちょっと費用かかりますが、町並みをそろえていこうといったこともやっております。

23年から発足しまして、いろいろと検討しまして、やっぱりこの地域は非常に高齢化が進んでおりますし、人口がそう増えてない。そういった状況の中で、バス路線、鉄道含めましていろいろあるのですが、非常に回数が少なくて便利が悪いということで市のほうもいろいろと補助をいただいているので、我々もどうにか助かっている部分もございしますが、もう少し利便性をよくしたいということで検討をしまして、コミュニティバスとか、こういったものも運営したらという検討もしましたが、最終的に市のほうで市全体の構想をつくられるということですので、それを待ってまた始めようということで、現在休止状態になっております。

インターネットのホームページ等でいろんなことを見られるのですが、やっぱり現場を見てみないとわからない。上峰町に実は視察に行きました。行ってみますと、非常にいいってことで行ってみたのですが、これは宅配ですね、マーケットにつながって宅配を町がやられているのですが、現実利用している方は二、三人しかいないとか、やっぱり行ってないとわからない部分があるし、実際やってみるのは、皆してほしいと言われる。

もとに戻りますが、コミュニティバスだって、将来利用したいと言う方いっぱいおられますが、現状なかなか乗られてないのが必至なのです。だからそういった状況ございしますので、何からとっかかってやっていくかというのに非常に苦慮した部会ではございます。

費用がかかりますもので、視察を大概にしてくれと言われていたのですが、いろんなインターネットを使ってでもやりますが、できる限りやっぱり必要なところは見に行っていていこうということで、実は今までの中で3回もあちこちうろろしています。

今申しました上峰町も行きましたし、そのさきに出てまいります省力発電ですね。実は

山家も小さな川ですが、県営河川がございます。ですから、それを利用して少し発電もして地元貢献したらということも検討しましたが、最終的には設置場所が小さな山の中腹につくろうという考えにしました。ですが、山家全体を賄うほどにはできない。かといって1つの集落だけをやると非常に問題が出てきそうで、それからメンテナンス、そういった部分もございますので、最終的にはこの発電、水力発電なのですが、断念しております。

それから、ソーラーも検討しましたし、いろんなことやってきたのですが、なかなか思うように、そしてソーラーも当時は値段も高くていいかなという話もやってきた経緯がありますが、現状はちょっとおいた形になっております。

もう1つ、また視察に行ったやつなのですが、うちは御存じのとおり史跡が少しは残っております。実は余計残っております吉井町とか秋月のほうとかいろんなところを見に行きまして、1番感じたのはやっぱり案内板がしっかりしているのですね、そしてものが残っている。うちも全然ないわけじゃないから、それをはっきりわかるようにしようということで、山家地区の観光案内みたいな案内板をつくらせていただいて、それを管内6カ所に、1番上は1区のほうから1番下はJRの山家駅まで6カ所設置しました。結構よそから来た人も含めて、山家の人がかえって見てあるというか、そういった状況で、少し参考になってよかったのかなというふうには考えております。

今後は、案内板はできたのですが、実は200号線ができた関係でほとんど町並みが壊れてしまっています。ここから入っていくとこういう史跡があるのですよという部分がわかりにくいのです。ですから、来年度につきましては、ぜひそれもあわせてやっていきたいという方向を持っております。

全体像として1番あるのは、将来的にはやっぱりそういう山家の史跡を大事にするなら、財産的にいろんな古物とか本とかいろんな昔のやつがまだ残っておるところがあると思います。ほとんどがやっぱり処分されているという話も聞きますが、今のうちに集めてないとうとうございませぬので、そういったことにも、ぜひとっかかってやっていきたい、そういうことを考えております。

そして、やっぱり利便性がよくて、将来的にもこの地域に住んでよかったというように、町並み全体、それから公園の話とか、いろんな話をうちの部は、他の部に属しない分は全部うちのほうに引っかかってまいりますので、そういった中でいろんな話を、会議を1時間しかしません。もう長くしても一緒ですから、1時間ということで月1回という形で、現在も取り組んでいるところですので、ぜひともいろんな形の中で、市のほうも御協力い

ただいておりますし、また今後よろしくお願ひしたいと思ひます。説明を終わります。

○（防犯・防災部長） 防犯・防災部から説明させていただきます。

構成メンバーとしましては、青少年補導員さん、それから青少年指導員さん、主任児童委員さん、それと消防団山家分団、山家駐在所、それと地区主事会と区長会の皆さん、昨年度から山家地区の交通指導員さんの方5名いらっしゃいますが、その方にも参加いただいております。

実際、災害の危険箇所の対策としましては、地図と調査による確認としまして、最近大雨が続いておりますので、ある程度把握できるのところと申しますか、そのときに見回り等も、ちょっと少しずつですが、やっているようにしています。

防犯に関する研修会としまして、夜須高原で子どもたち、毎年高学年を1泊2日ということで、もう20年ぐらいになります。青少年指導員さんが主体になりまして連れて行って、遊ばせ、勉強もさせなくちゃということで、講義の中で万引きですね、子どもたちの万引きが結局は窃盗という罪になるということ、いろいろ交通事故その他もしまして、空き巣とかオレオレ詐欺につきましては、駐在さんのほうで各地区に要望があれば行って御説明するというようなこともされているということです。

あと子ども110番、これはコミ協が始まって以来ずっとなのですけど、看板です。看板がついておりましたけれども、古くなったりとか、剥がれ落ちたりとかしているところもありましたので、その調査と、壊れているところは新しくする。あとまた新たに設置できるところについては、設置をしていただくお願ひを回っていたしております。この子ども110番については、マニュアルがございますので、その設置していただいた方についてはマニュアル等も配付しております。

防犯パトロールは、毎月第2、第4の金曜日の夜、火災予防巡回は消防団のほうでお願いしております。

山家小学校の児童への防犯意識としまして、これについては夜須高原で、ある程度高学年の子どもたちにはそういうふうな講義ということで、そのときの反省文というか感想文を毎年書いていただいております。これは夜須高原の宿泊体験の写真です。

あと登校時の見守りとか校区内の巡回、これについてはいろいろ山家地区、筑紫地区、それぞれ関係があるところで見守り等ができる方には見守りをお願いしております。

夏、冬、夜間一斉補導については、筑山中学校校区内、年2回行っております。

小学校のほうで地域住民合同防災訓練というのを、これ1回消防団のほうから山家地区

の皆様、ある程度の方に御協力いただきまして、山家小学校の運動場を使いまして、実際に指南していただくというようなことをやりました。ただ、この日は突然の雨になり、急遽運動場のほうから体育館のほうに入らせていただくということで、これが初めてのことでしたので、行っていく上では、ちょっといろいろ問題が出ましたけれども、一応無難には終わらせられたかなと思っております。

こういうふうに消防団とかいろいろ御協力いただきまして、今のところ防災のほうとしてはこういうふうなところを取り組んでいっております。

会議等は、毎月1回を原則で話し合いをしております。先ほど言いましたとおり、構成メンバーについては、団体の方が多く、一応団体の代表の方に来ていただくということで、これからも頑張っていきたいと思っております。

最後になりますけれども、今年度には、山家地区には青パト隊がございませんでしたので、最後に多分山家地区が青パト隊を始めるといことになると思います。今一応検討段階でいろいろ御相談していますので、その点はこれからもよろしく願います。以上です。

○（環境部長） 環境部会を代表しまして、これまでの取り組みと、それから市に対する要望について申し上げたいと思っております。

環境部会は、山家蛍の会、それから冷水自然を守る会、農業委員、各区から来ております環境衛生協力員8名、区長会、主事会の代表を入れまして約20名で構成しております。

私どもはこの山家区民の住みよい環境をどうつくっていくかと、そのために環境部会としては何をするかと。特に山家のこの豊かな自然環境を守っていくことが第1、次に山家が持っている長崎街道以来の歴史文化です。それから宮地岳の彩色古墳など、こういう文化遺跡の資産をどのように守り、発展、紹介していくかと、筑紫野市民にですね。こういう活動を頭に置いて、具体的な活動をこの山家コミュニティ結成以来やってまいりました。

毎年、山家川への水質検査、これはパックテストですけども、年4回行っています。

それから、地区内の産廃中間処理施設が12ございます。産廃銀座と言われるくらい山家は、産廃業者が押しかけているわけですね。だからいろいろ住民からの不満もありますもので、平成25年に各区の推進委員を通して、この中間処理施設の調査を行いました。この中で、環境施設が各区と取り結んだ覚書などをやるとわかったというふうな状況です。覚書とか協定書、こういったのも全部出してもらって検討を行った次第です。

それから、もう1つはエコセンチュリー問題が、今1番大きな山家の問題なわけです。これについても、環境部会は積極的に取り組んではいますが、中間処理施設のクリーン

パークさが、ゴミ焼却施設のクリーンヒル宝満など4カ所を皆で視察をして、何が問題かということ学習するというような活動も行ってまいりました。

また、1区に産廃の水処理施設がございます。スタンツという会社がやっておりました。これも反対活動を1区を中心はずっとやってきたのですが、昨年でしたか、やっと県がこれについては許可を取り消しということになりました。だから、後処理の問題が残っておりますが、そういった活動もずっとやってきたところです。

もちろん環境問題以外に、私ども宮地岳の登山とその環境整備を取り組んでまいりました。毎年ハイキングをやっておりますが、登山道が非常に急坂なものですから、ずっと横の急坂などこだけ棒杭を打って、皆が登りやすいような登山道の整備をやりました。また、どこから登っていいかわからないような状況もありましたので、標識をつくって道案内をするというようなこともやったところです。また、登っても頂上から山家が見えないという問題がありましたから、それで木の伐採を地主と相談してやりまして、やっと登山者が、頂上が見えるということになりまして、頂上に昨年、楓の植樹もやったところです。

もう1つ、この宮地岳の登山の中腹に、殿様塚という彩色古墳があるのです。これは市もよく御存知だし、国もこれはちゃんと資料がいつている。だから、これも平成24年に調査活動したのですが、全然そのまま入り口をふさいだままの状態です。登山道を企業が壊しております、その企業も倒産したという話もあるのですが、登山道の整備を早急に市にやっていただきたいと思っております。そして、その彩色古墳は、やっぱり整備して開放すると、宮地岳の登山とあわせてこれをやるということで、筑紫野市内の小中学校の皆さんの、これは健康と学習にもなりますから、この辺もひとつ、市と協働でやれないかなと思っております。

私どもは、構成の中に山家蛍の会というのもありまして、そこで蛍の幼虫の育成と放流をやりながら、この環境施設の下流のほうはもう蛍が飛ばなくなっておりますが、それでも谷川のほうは、蛍は15カ所ぐらい飛ぶような状況になっておりまして、蛍保護地区の看板とそういう活動を行っている次第です。

今後の問題として、市のほうもちょっと御検討いただきたいのですが、1つは、山家に多数存在する産廃処理施設です。またこれから建設しようと計画されている、エコセンチュリーもそうなのですが、公害を発生させないためにどうするか。市長もこれから、見解書をお出しになる段階じゃないかと思うのですが、何か環境条例みたいなものをつくって、既存の中間処理施設がきちんとPM2.5とか、有害廃棄ガスとか、こういったものが毎

年、状況調べて報告させるとか、企業そのものの廃止というのは…。

○（安武会長） 環境部長さん。報告だからね、今要望ばかり言っている。意見交換の場があるのだからそこで。

○（環境部長） そうですか。わかりました。それ以外で要望する時間をとってくださるそうですから、あと2つほどありますけど、それはその場所でまた意見を述べさせていただきます。どうも失礼しました。

○（健康・福祉部長） それでは、健康・福祉部から報告いたします。

健康・福祉部は山家地区社会福祉協議会、田中会長初め、区長会から2名、主事会から3名、民生委員、福祉委員、老人会、障がい者支援の会など全26名によって、全ての住民が尊ばれ、健康で安全、そして安心して暮らせる山家の福祉づくりを目標に活動しております。

活動報告としましては、12月に75歳以上の高齢者を対象に、声かけをしながら花鉢を配っております。例を挙げますと、平成23年は347名、24年368名、25年351名、26年365名、27年370名で、年々高齢者の増加が見られますが、これからもずっと続けていこうと思っております。

また、福祉委員は各区に1名ずつおまして、毎月1回もしくは2回のいきいきサロン活動をしています。内容は、各区違いますが、健康教室、健康体操、講師を呼んでの講座とか、ものづくりなどです。これを各区の公民館で実施しております。

また、年に1回か2回、いろんな工場見学や史跡めぐりなどのバスハイクもしています。

また、大きな事業としては、平成24年から老人会、いきいきサロン合同による、健康推進事業を始めました。これはいきいきサロン、老人会、山家地区全体から参加者を募り、平成24年が104名、25年150名、26年142名、27年149名、そして今年7月4日に行いました。140名の参加でした。これは毎年講師を呼んで健康の講座をお願いしています。

また、市の社会福祉協議会、健康推進課、包括センターの方々に協力をお願いして、会場づくり、レクリエーションなどの指導をしていただき、総合福祉センターカミーリヤで実施しています。今回で5回目ですが、参加者がある限り続けていきます。そんな中、心配なことが1つあるのですが、それは高齢者の方が段々増えて、参加者が減っていくのじやなかろうかということです。その対策として、体は元気でも足が不自由な高齢者の方も参加できるように、車椅子などの準備、レクリエーションの内容を車椅子のままでもできる

ような内容に改良して、少しでも多くの方に参加していただけるように努力していこうと考えております。

他にコミセンとの共催によるふれあい講座を消防署の方に来ていただき、救急救命講習会などもしてきました。

それに今年の6月、包括センターより講師を2名に来ていただき、認知症サポーター養成講座を開催しました。これは63名の方が参加され、大変好評でした。

これからはコミセンとの共催で市の高齢者支援課、楽器店の協力でシニア音楽サロンと、同じくコミセンとの共催によるすこやか健康クラブを続けます。もちろんカミーリアでのいきいきサロン・老人会合同事業、高齢者花鉢配布も続けますが、今1番力を入れているのは、山家地区の75歳以上の独居者、病弱者、障害者の方々への救急救命安心ポットの設置です。これは丸い筒の中にかかりつけの病院や血液型、生年月日などを記入した一定の用紙を入れ、冷蔵庫に入れておき、玄関と冷蔵庫の外側にシールを張って、救急車の方がすぐわかるようにしておくものです。その設置の後には、各家庭を訪問し、確実に設置ができているか、何か相談ごとがないかなど声かけをして、少しでも多くの方に接して活動を広げていこうと思っております。以上です。

○（子ども育成部長） 最後になりました、子ども育成部です。

子ども育成部では、小学校のPTA、中学校、幼稚園のPTA、また、やまえ文庫ありんこの会といってボランティア団体さんとかを構成団体に、笑顔あふれる山家の子育て環境の育成を目指して、子どもを中心とした活動を続けています。

まず、1番最初に平成24年にコミ協成立後に、子ども会のことについて取り組みました。山家地区では、子どもの少子化もあり、子ども会の存在が段々なくなっていったもので、山家小学校の子ども全部、山家地区の小学生全部を会員とした山家地区子ども会を発足して、子ども会の子どもリーダーによる5、6年生のリーダーたちが中心となった遊び集会等を中心に、年間に三、四回の小学校の体育館で遊ぶぞという、大人の手を借りない子どもの活動を頑張っていっております。

それから、もう1つ大事な分で、やまえ文庫というのが山家コミュニティセンターにはあります。これは、山家地区公民館時代からありました文庫でして、30年以上の歴史を持っております。その文庫を支えているボランティアをありんこの会と称しまして、読み聞かせ会、それから、毎週金曜日に貸し出しを行っており、そのときには、子育てサロンの幼児と親の方、お母さんたちがお見えになりますので、幼児の読み聞かせ、また本の貸

し出しをやっております。また、その他小学校への読み聞かせ活動に定期的に行って、子どもたちと本がつながるように頑張っております。

それから、子育て環境の取り組みとして、コミ協発足すぐに何ができるかということで、各交差点の横断旗の整備が遅れておりましたので、横断旗100本を購入して設置する。それを毎年購入し、入れかえながら管理を行っております。

それから、児童公園とかの要望も多いので、どういう公園の形がいいのかなという協議等も進めていっております。

それから、体験学習の取り組みとしまして、親子クッキングであったり、あと夏祭りの子どもみこし、文化祭での人形劇の取り組み、この人形劇の取り組みは昨年が2回目でした。今年も文化祭の中で、ぜひ人形劇を見て、子どもたち、楽しんでもらいたいと思って企画していっています。

その他には、筑山中を知る交流会ということで、6年生の子どもたちが中学に上がるに当たって、先輩である中学生にどんな部活があるとかいろいろなお話が聞けたらいいなという交流会であったり、あとバルーンアートを体験してもらったり等の活動をしております。

それから、社会環境への取り組みですけれども、先ほど全体の中で山家成人式の取り組みを御紹介させていただきました。これも27年に1回目17名の参加、2回目の28年今年のお正月は20名の参加、来年のお正月には3回目を取り組む予定です。

これは、本当に山家が新成人を地域で心からお祝いして、地域社会の一員として迎えたい、また若い世代の発想や知恵、エネルギーを生かして、山家の活性化を図りたいとの思いで始めております。小学校時代の先生方も来ていただいて、同窓会的に行っております。市の成人式と同じ日に、市は午後に関くようになりましたので、その午前中を利用して、山家に1度集まって、山家で同窓会的に成人式をやりまして、それから、皆を筑紫野市の成人式に送り出すという形をとっております、大変喜んでいただいております。

来年の対象の子どもたちが山家小卒業時36名と、今すごく少なくて子どもたち二十何名ぐらいしか1クラスいないのですが、その当時は36名の卒業生でしたので、また年明けの成人式にはたくさんの子が集まってくれるのではないかと考えております。

それから、山家学び舎といいまして、学習と支援の必要な子たちへの取り組みを、今年から始めました。現在は毎週火曜日の夜に小学部を7名、5時から6時の1時間、それから中学部が7名で6時半から8時と1時間半、学習の支援を行っております。これには、小学部につきましては、山家小の教頭先生なり主幹の先生が必ずかかわっていただいて、

あと中学部については、本当に1人ずつ見てあげないといけないぐらいなところがありますので、大学生のボランティアであったり、あと地域のボランティアの方等々支援をいただいで、ボランティア指導のボランティアも来てもらっております。やり始めたばかりですが、少しずつだが、少し学習の姿勢が変わってきているのじゃないかなと手応えを感じているところです。

これからの活動ですが、今年度目指しているところとしては、山家地区全体の挨拶運動を育成部から発信して、全部でやっていって、挨拶がいっぱいある元気な山家になってほしいなと思っております。その他、いろんな見守り活動等の他の部とも連携しながら、育成部、山家の子どもを元気に育てたいと思っております。以上です。

○（事務局） ありがとうございます。大変熱のこもった説明を聞かせていただきました。市内に1番最初に誕生した山家コミュニティ運営協議会ですが、さまざまな角度からまちづくりを考え、取り組まれている、しかも先進的な取り組みがたくさんあっている。そういった様子がわかりました。

それでは、このまま意見交換に進ませていただきたいと思います。今報告にもありましたとおり、コミュニティの活動には大変幅広くございまして、本日はそれ全てを扱うというのは、なかなか時間もありますので、テーマを少し絞らせていただきたいなと思っております。御協力をいただきたいと思います。

まず、1つ目のテーマですが、山家地区、報告の中にも、宿場とか史跡というフレーズが出ておりましたが、長崎街道を中心として、さまざまな史跡、数えましたら岩戸神楽の無形文化財を含めまして、県とか市の指定を受けているのは7つございまして、そういった史跡を活用したまちづくり、そういったところをテーマにまずは、お話、御意見をお伺いしたいと思います。今日、お配りいただいています山家の振興プランの中に、史跡の活用のプランがたくさんございました。その中に郡屋とか大庄屋跡とかの活用がございまして、そのことからまずはお伺いしたいと思います。御意見お聞かせください。

○（環境部長） 環境部の西岡です。この文化史跡の保存、紹介という問題のところ、私1つこれ環境部会としても、山家振興プランの中で提案をしておる事項ですが、6区の大庄屋跡地の中に長屋門があったのを非常に痛んでおりましたので、取り壊して、今8区の郡屋のところのプレハブの中にそれは保存してあるのです。だから、大庄屋跡地に長屋門を復元して、さらに山家歴史資料館を、あの市の土地につくって、山家の文化遺跡、史跡を紹介したらどうかと。たくさんの方が観光・視察に山家に見えているのですけれども、

どこに何があるかわからないという状態がかなりございます。

また、山家におる人でも、どこに何があるかというのは完全に把握してない。やっぱり小中学生の学習の場にもそれをしたいし、観光発展にも役立つという点で、あそこを山家の文化ゾーンにしたらどうか。駐車場問題も前からいろいろ言われておりますから、その後ろに荒地の田んぼがありまして、あの交差点からまっすぐ裏に行けば広い駐車場もできますので、これをぜひ今年は私どもやりたいと思っております、市の文化担当課と協議をさせてほしいと思っております事項の1つですので、どうかこれについても御意見があったらお聞かせ願いたいし、これからも協議をさせていただきたいと思っております。

○（事務局） 他に、史跡活用のまちづくりで御意見ある方いらっしゃいませんか。

○（木村事務局長） 事務局長をしています木村です。お手元に、山家振興プランというものを配付しておりますが、この中で取り組むことの1つで、郡屋それから大庄屋の整備というところは、まだまだこれ山家振興委員会を立ち上げたばかりで、具体的にどうしていくかということがまだ決まっております。我々振興委員会立ち上げたばかりでして、今後市のほうにも御相談、御協力をお願いしたいということで、まだちょっと具体的に申せませんが、この辺はよろしくお願ひしたいと思ひます。

先ほど郡屋の中にプレハブ、大庄屋の材木を入れていたと言っておりましたが、これが朽ち果てて使い物にならない状態。プレハブ自体も非常に痛んでいまして、もうさびてしまっていて、非常に見苦しい状態でもあります。したがって、この辺も少し整備をしていきたいと考えておまして、ぜひ、市のほうの御協力をお願いしたいということです。

それから、あと交流人口を増やすといいますか、郡屋のところにとくさん人が来るわけですが、トイレの設備が大小1器ずつしかないということで、大人数来られると、どうしてもトイレの問題が出てくるということで、せつかく郡屋の前に1器ずつございますので、これを少し増やしていただけないかといったことです。よろしくお願ひします。

○（事務局） ありがとうございます。他には何か。

○（子ども育成部長） すみません。今のトイレの増設について、ちょっと追加事項なのですが、洋式トイレをぜひあったほうがいいのではなからうかと思ひている点と、そのトイレがあります郡屋の入り口のところの草地が、砂利をちょっと軽く敷いてある程度で、現在史跡を守る会等で草取りをしているのですが、とても苦勞しています。すごく大変なのですよね。ですから、せめてトイレがあります入り口部分は、コンクリであつたり、草が生えないような、車もとめやすいような、そういう整地をしていただけたらいいなど、こ

のごろ草取りを皆で必死でやりながら、これは何とかならないだろうかと、中のほうの草とか、大庄屋跡のあたりとかの草取りなんかは、本当に頑張ってやっているのですが、大変苦勞しておりますので、考えていただけると助かります。

○（事務局） 他に史跡関係で、御意見ある方いらっしゃいますか。

○（環境部長） 先ほど、私、宮地岳の中腹に彩色古墳がありますと。里道になっているのですね。登山道が壊れてしまって登れないのですよね。だからそれは、市がやればすぐにできることですから、道路の整備、復活は。ただ、彩色古墳を整備して開放するかどうかというのは、これからやっぱりかなり検討して準備しないと難しいと思うのです。だから、これらについての見解、前から文化課とは話はしてきているのですが、どのように考えてやろうとしているか、私どもの意見は意見で出しますが、市側はどういう考え方を持っているか、各部署から見えていますので御回答いただければと思います。

○（事務局） まず1つ目のテーマ、史跡を活用したまちづくり、他に御意見がないようでしたら一括して市側の見解を述べさせていただきたいと思いますが、よろしいですか。

○（北橋総務部長） それでは、私のほうから、今出された意見に対して、総括的なお話になるのかなというふうに思います。内容をお聞きすると、大変スケールの大きな課題から、少しお互い協力したり、知恵を絞れば解決できそうな問題から多岐にわたっておりまして、個々に具体的にそれぞれお話するというよりも、総括的な中身になるとは思いますけど、お話させていただきたいと思っています。

今、お話があったように、山家地区には県指定の史跡、山家宿西構口並びに土堀、また市史跡としての山家宿の郡屋跡と、いわゆる江戸時代の長崎街道・山家宿と関連する文化財が本当に多数存在しています。そのような貴重な史跡を多数抱えている地域の課題というふうに思いますし、それを大切にしていこうという気持ちがひしひしとやっぱり伝わってくるような思いがいたしておるところです。

山家にある、この重要な文化財を保全して活用し、先ほどもお話があったように、山家の活性化につなげていくというのは、本当に大切なことだなということを、また別の角度からも考えさせていただいたところなんです。

先ほど御紹介がありました山家振興プランですね。これは、今お話があった中身等をさらに自分たちの地域課題として、またこの山家コミュニティ運営協議会の取り組みとしても、さらに前進させていこうというものであるというふうに思って、同様に、この中にきちっと位置づけながら検討をしていくということでもありますので、まずは市としてもそ

のような取り組み等も踏まえながら、また受けとめさせていただきながら、まずは注視をさせていただこうかなと思っております。

先ほどから御意見があつていますように、文化財の整備にあたりましては、やっぱり保全という観点というだけではなくて、まちづくり、それから観光、このような視点も必要な要素になってくるというふうに市のほうも思っております。

また、一方では、財政的な問題、いわゆる財政面に大きく影響を与える課題でもあるというふうに思っておりますので、そのような観点から、総合的に将来のことも見据えながら、考えていく必要があるのではないかなというふうに思っております。

そのような考えを持ちながら、今後歩みを続けていきたいと思っております。お互いに協力できるものは協力しながらというスタンスは当然であろうというふうに思っておりますので、そのような立場で、また一緒に考えられるものは考えていきたいなと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

総括的な、非常に何か抽象的な回答になりますが、このような回答でとどめさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○（事務局） よろしいですか。では、次のテーマに移らせていただいてもいいですか。次は、防災についてお伺いしたいと思います。山家地区は、土砂災害警戒区域が多くありまして、先ほど防犯・防災部会の報告にもしっかりとした取り組みがされておりました。防災への意識が高い地区だという認識をしております。そこで、防災をテーマにどなたか御意見をお聞かせいただけませんかでしょうか。

○（防犯・防災部長） 防災の取り組みと申しますか、今筑紫野市のほうから防災マップというのは配付されていると思うのですけれど、たまたま東京の「東京防災」という防災の手帳と申しますか、ちょっとちっちゃい冊子。それをたまたま見る機会があつて、中を見たときに、すごく簡単でわかりやすいのですよ。1番大事なことじゃなかろうかと思うのです。熊本の地震がありましたけども、自分の命は自分で守るというのが、まず大前提にあるのじゃなかろうかと思うので、たまたま見てこういうのがいいなと思いました。

山家地区に関すれば、どっちかという土砂災害のほうメインになってくると思うので、土砂災害のときにここが崩れたよと、じゃあ簡単にいえばどこに電話したらいいかと。他にも大雨警報とかいろいろ出ますので、実際避難所が開設しているとかいうのもありますし、いつの時点で避難ができるのかどうかとかいうことを、簡単にわかりやすくで、そういう冊子と申しますか、残せるやつをぜひ何らかの形で作っていただけたら、すごく

説明するのも、開けば、この辺を見てとかいう感じで、ある程度いろいろできるのじゃないかろうか、地域の皆さんの意識も変わってくるのじゃないかろうかと思いますので、御検討をよろしく願いできればと思います。

- （平嶋副会長） すみません。今マップをつくっていただけないでしょうかっていうこと出ましたけれども、やっぱり防災マップは自分たち住民の手で作り上げていって、最終的に市にお願いするという形でないと、人がつくった防災マップを、やっぱり住民はわからないと思うのですよ。やっぱり住民が寄り集まって、自分たちの手で作り上げていく。どこに何があるかというのは、住民が1番知っていると思うのです。そういう方たちで作り上げていったほうがいいのじゃないかなと思います。

ちなみに7月10日に山家6区は防災訓練をしました。安全安心課から来ていただいて、話を聞きながら地図の上に自分たちで落としていく、どこに何があるのか、どこが危ないのか、どこが安全なのかということ、自分たちの手で作り上げていって、それを最終的には清書していただくという形のほうが、私はいいのではないかなと思っています。

- （事務局） ありがとうございます。

- （理事） 私は、山家3区というところに住んでいて、周りが結構崖になっているところなのです。今からもう六、七年も前に大雨が降ったときに、変な話ですけど、上のほうからのものすごい水で、結構高台にいるのですが、家の中まで水が10センチぐらい入って大変だったですね。

高いところで、何で大水になったのかというと、上のほうに筑豊本線がありまして、汽車が通っているのですが、そこがこちらから見るとちょうどダムの状態のような形になっているのですよね。ダムみたいな感じになっている鉄道の向こう側が竹やぶなんですけど、下のほうに配水管が、私たちが住んでいるところの横のほうに川の水のように流れているのです。ところがその配水管が、何か向こう側に詰まっていたらしいです。ダム状態に竹やぶのほうで水がものすごい量たまっていて、それがあるとき大きなごみか何かが、水の圧力か何かで抜いたらしいです。

それでもう私たち3区の住民の上から滝のように水が流れてきて、それで私のうちも10センチぐらい水が積もったのですね。コミュニティのほうに皆、夜中の12時近くになって避難したのですが、後から聞いてみると、結局そういうふうに向こう側がダム状態でものすごい水がたまっていて、それが一気に流れ出したということだったらしいのです。

それで、その当時の区長さんもいらっしゃいますけど、とにかくそのころJRのほうに、

いろんな被害もあったものですから、結局どういうふうにかどうかとにかく委任してくれということで、市に連絡していろいろやったのですけども、報告もないし、それこそJRから何の話も聞きに来ていただかなくて。それで皆いろんな、エアコンの室外機とかそれから温水器とかあったのですけど、被害に遭ったのですけど、JRの筑豊本線と市との連携というか、どういう形になっていたのかなと今でも疑問に感じているのですよね。

この前も、ものすごい大雨だったのですけど、またひよっとしてあっちのほうちゃんと掃除してあるのだろうかとか不安を感じたものですから、そういうところ、ちょっとJRの清掃の仕方とか、市のほうからちょっと連絡というか、どういうふうになっているのかということ調査していただくとありがたいなと思って、ちょっと一言、お願いしたいと思います。

○（事務局） ありがとうございます。では、市からの答弁をお願いします。

○（北橋総務部長） 私のほうから、3人の方から御意見等いただきました。まず、3区の筑豊本線の件、何年前とおっしゃいましたか。

○（理事） 山崩れがあって亡くなったとき。

○（北橋総務部長） ああ、そのときですね。そのときの経過がどうなっているか、ちょっと私も把握しておりませんので、それはまた調べないといけないと思っていますけど、市とJRとの関係というのは、何かあれば市から当然言いますし、市からだけじゃなくて、せつかくここに地域課題を解決しようということのコミュニティ運営協議会ができていますから、コミュニティ運営協議会からもお話されてもいいというふうに思っています。

今後、やっぱりこのようなことがないようにしないとけないし、またJRの責任だということだけじゃなくて、地域で常日ごろから危ないところは見て回る、点検して回る、事前の準備、備え、これが非常に結果的に災害とか身を守るということがベースですので、そういう申し入れとか連携というものも当然大事ですけど、まずは、自分たちでできることをやるのが、災害で最も身を守るための基本中の基本とされていますので、そこら辺も少し御理解いただきながら、先ほどのはちょっと今何とも言えないところがありますので、調べてみたいというふうに思っています。

それから、あと防災マップの件が2件出たのですが、平嶋副会長さん、非常に大事なことを言われたというふうに思っております。

変な話ですけど、実はこれ24年に、御存知でしょうか、筑紫野市ハザードマップをつくったのですよ。確かにさっき言われる東京防災ほどきめ細やかでわかりやすくありませ

ん。しかし、基本的な内容はこれにきちんと書いてあるのです。ただ、これ全戸配布したのですが、やっぱり市がつくったからでしょうかね、皆さんの思いがなかったのでしょうかね、もうすごかったのですよ、ゴミの山で。だからやっぱりこういうことはなくしていかないといけないと思いますね。

そういう意味でも、今おっしゃったように、それぞれができることを、どう積み上げていくかということが非常に大事なことだということで受けとめさせてもらいながら、6区でもそのような訓練されているということに敬意を表したいと思っています。

それから、防災マップの作成ですけど、私も購入はしていませんが、インターネットで見させていただいたり、PDFから見っていますが、中身を見るとおっしゃるように非常にわかりやすいですよ。いわゆる災害に対する事前の備えとか、災害時の対処方法がイラストがたくさん使われて、わかりやすく、しかも使いやすい工夫がされているのです。そういうものを見させていただいたときには、うちのこの防災マップがこれでいいとは思いませんので、改定時にはぜひ参考にさせていただきたいなと思っていますところでは。

先ほど、平嶋さん、柴田さんが言われたことにもかかわってまいりますけど、阪神淡路大震災以降、特に近年のいわゆる自然災害から身を守るということなのですが、その対策は、市民の日ごろの備えと、いわゆる防災意識、それと地域の助け合いと言われているのです。それをしていくためには、やっぱり1人でも多くの方が、やっぱり防災意識を高めていくという取り組み、また関心を持っていくということが大事だと思いますし、やっぱり地域とのつながりに関心を持つということもあわせて大事だというふうに思っています。そのような中で、このマップが活用されていくと、非常に効果が、先ほど佐々木部長さんが言われたようなところでは、さらに増すのだろうというふうに思っています。

市でも、このハザードマップを活用した出前講座も各地域でどんどん進めております。何かあればどうぞ市のほうにおっしゃってください。一緒にやりたいと思います。ぜひとも山家のほうでも、山家コミュニティで、先ほど御紹介あったように、訓練やいろんな取り組みされておりますので、各行政区の自主防災組織とうまく連携を図っていただいて、やっぱりよりよい皆の関心が高まって、災害から身を守るような地域になっていただくことをぜひとも期待したいと思いますし、市も一生懸命連携していきたいと思っていますので、どうぞよろしくをお願いします。

○（事務局） もう1つだけ、まちづくり部から、山家交通事情の話が、紹介がございました。山家振興プランの中でも、公共交通の利便性の確保とか買い物弱者のお話とかが取り

上げられていましたが、この件について、どなたか御意見ありませんか。

○（まちづくり部長） 部会の報告の中でも若干申し上げましたが、とにかく便利が悪いのは現実なのです。ただ、皆さん車に乗られるもので、各戸それぞれの中で処理されているというのが現実です。

ですが、最終的には公共の交通機関がしっかりしておくことが大事だと思いますし、車というのは各個人が乗ってまいりますと非常に渋滞もしますし、いろんなことに事故等もありますし、年齢がいきますと車も断念せざるを得ないような状況も出てまいりますので、ぜひとも公共の交通機関でもってやる方向。

これは、先ほどちらっと申しましたように、市のほうからも先般言われまして、市として整備計画を立てるといふことでは言われていることだと思います。ですから、こう言っているのですが、時間も相当経ってきたように思いますので、もし何かの辺まで進んでおるとか、そういうできましたら早目、早目にこちらをしたいし、市のほうもぜひやっていただきたい、そういうふうに思っております。うちもいろんなコミュニティバスとかタクシー券を出したらとかいろいろ言っていましたが、最終的には、やっぱり金の問題になるのです。ですから、今市からも相当1000万円からの助成をバス会社のほうに出しているようなこと存じております。ですが、それをずっと続けるというのもまた難しいと思いますから、ぜひとも早々に検討、そして今申しましたように、どこら辺までお進みになられているのか、もしお話ができるようでしたら、お聞かせいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○（宗貞企画政策部長） 私のほうから御説明させていただきます。今後の取り組みということですが、昨年の10月にバス事業者あるいはタクシー事業者などの交通事業者、それから運輸支局、老人会とかPTAなどの市民代表、総勢21人からなる、地域公共交通会議というものを立ち上げております。いわゆる法定協議会というものです。

本年3月にその会議に諮って、地域公共交通網形成計画というのをつくったというところですが、この計画は、公共交通の基本的な方針とかあるいは目標というものを定めております。今後については、この交通網形成計画にのっとって、さらに先ほどの地域公共交通会議を通して、今あるカミーリヤバスの有効活用、それから新たな交通手段がどうなのか、その辺を含めて検討していきたい。ですから今の時点では目標を設定したので、じゃあ具体的に今後どうするのかという検討に入ったという状況だということになります。

先ほどの話にも出ておりましたけど、山家地区は山家・上西山から西鉄筑紫駅までの路

線バスがありますけど、なかなか乗降客数が伸び悩んでいるという状況じゃないかなというふうに思っています。どれだけ利用される方を増やすか、あるいはどれだけ利便性を上げるか、その辺が地域あるいは行政の共通した課題だろうと思っておりますので、公共交通よりよいものをする事ができるように地域の知恵を拝借しながら、前向きに検討進めていきたいと、そういう状況です。

○（事務局） 申し訳ございません。もう時間が余りございませんので、意見交換をこの辺で切り上げさせていただきたいと思っております。

○（環境部長） 済みません。さっき言いかけていたことが1つだけありますので、簡単に言いますから、それだけよろしいでしょうか。

○（事務局） はい。

○（環境部長） 山家は、中間処理施設の銀座通りだということを申し上げて、要望は後でと会長が申しましたので、私は企業の事業を妨害する権限は市にもないと思うのですよ。これは県が許認可権を持っていて、市長は見解書を述べるということにしか迷惑防止条例はないのですね。

企業は何やってもいいかと、市町村合併で山家も無指定地域になったために、それを利用してどんどんそういう業者が入ってくるというのは山家の実情なのです。だから、私は規制するというか、そういったことは可能じゃないかなと思うのですよね。何か知恵がないかなと、例えばきちんと調査報告を出させるとか、業者に対して、そういう条例上で報告の義務をさせるとか、何か知恵を働かせて、これは中間処理施設が勝手なことができないような、何か歯どめを何か考えてもらう必要があるのじゃないかなと、かねがね思っております。今日よい機会でしたから、私なりに、いろいろ考え方ありますが、県や市の条例とか法律で、憲法で保障されたものも全部規制措置がありますので、それをちょっと御検討いただけたらありがたいなと思っております。以上です。

○（藤田市長） 山家コミュニティを最初の移動市長室ということで、皆様方のお話を、るる聞かしていただきました。非常にそれぞれの部会が、前向きに建設的に山家コミュニティの活動としてしっかり取り組んである姿が本当によく理解できて、感心をして聞かせていただいていたというところでもございますが、後ほど28年度の予算を皆さん方にお示しいたしますけれども、自助、共助、公助というコミュニティの取り組みを進める上において、山家地区で抱えた問題はたくさんございますし、それを行政としても解決に向かうべき努力はしていかななくてはならないと思うところも多々ございます。

その1つに、西岡さんが言われた問題も含まれるであろうと思いますが、お話にもありましたとおり、許認可権を県が持っている以上は、我々市の行政としてできる範囲というのは、地域とそれから許認可権者との、あるいは施行者とのいろいろな意見交換をやった中で、市の行政として、それに意見を添えるという形にしか、今のところなりません。このところは、1つ御理解をいただきたいと思っております。

それから、3区の柴田さんの件は、これはちょっと調べさせていただいて、今後そういうふうなことを放置するというのは、行政としてもやはり何らかの手当てをしなくちゃならないと感じましたので、その点は持ち帰らせていただければと思っております。ただ、市が何にも報告もしなかったということは、非常にこれはけしからんことでありまして、そここのところはちゃんと持ち帰らせていただきたいと思っております。

それぞれにお話いただいた話は、1つ1つ答えるべき、これ市長が来ているわけですから答えるべきですけど、今日は部長も来ておりますので、ちょっと部長の出番もつくってやらないといけませんので、今年の我が市の301億8100万円の予算を、どのように配分しているか、市民の血税で市政運営は成り立っているわけですので、少し先に話をさせていただき、またこれに対して御要望があれば受けさせていただきたいと思っておりますが、よろしゅうございますでしょうか。

もう時間も過ぎているようですから、簡潔に申し上げさせてもらいたいと思っておりますが、平成28年の予算の内容について説明をさせていただきます。この山家地区につきましては、皆さん方のお話の中に、部会の取り組みの中に、出ておりましたとおり、長崎街道400年の歴史の中で、歴史や文化、自然、地域の人々など、たくさんの魅力が盛り込まれた地域であると思っておりますが、その山家地区にも該当します予算ですけど、一般会計の歳入予算の内訳ですが、自主財源、それから依存財源というのがございまして、この自主財源が52.5%を占めております。それから残りの47.5%が依存財源。皆さん方の税金をいただいた自主財源が、はるかに依存財源を上回っていると、非常にまちづくり、市の財政としては、安定している財源をいただいているというところになるろうと思っております。

歳出では、1番大きな割合を占めているのが、前のグラフにありますとおり民生費です。これは、子どもや高齢者、障害者などの福祉に使われるものでして、予算の44.1%を占め、額は約133億1000万円です。

次は、土木費ですが、道路や公園などの補修や建設に使われております。これが34億

722万円、11.3%です。

それから総務費、行政の運営や戸籍、税金の徴収などに使いますが、この予算が、29億8577万円、9.9%です。

それから、衛生費ですが、これが健康診断や予防接種、ごみ処理などに使われますが、29億1927万5000円、9.7%です。

次は、公債費ですが、これが市の借金を返済するものでして、28億6136万7000円、9.5%です。

次は、教育費ですが、教育や文化・スポーツなどに使われる予算で、24億547万2000円で、8%です。

最後に、その他ですけど、これは議会や農業、商工業、消防団などに使われる予算で、22億8704万3000円で、全体の7.5%を占めております。

そのような予算の配分をしております、これらの総額が301億8100万円という形になっておまして、現在、筑紫野市民10万2000人余の市民の皆さんの生活を守っていくという予算措置ですが、3月議会でこれが可決されて、今4月1日からこれを施行しているというような形になっているところです。

私、市長になるときに、筑紫野市に帰ったら5本の柱で市政の施策を進めていこうと考えて、1期目、2期目を同じような施策を推進しております。

まず、行財政改革でありまして、次が産業をつくり雇用を創出することによって活性化を図っていこうと、それから市民の生活を守ろうと、それから、共助社会づくり、そして、未来をつくるという、この5本の柱を掲げて、「自然と街の共生都市 ひかり輝くふるさとちくしの」をつくり上げていこうと、こういう目的で今現在進めているところです。

皆さんに関係する施策を含めた予算措置を申し上げさせていただきました。これまでのところで何か御質問がありましたらお受けさせていただきたいと思っております。

○（理事） いいですか。歳入のほうで、市債が17億1800万、この市債の購入先はどこですか。これは銀行ですか。市債、銀行に買ってもらっているわけでしょう。国債と同じですよ。歳出のほういいですか。歳出で借金返済が28億6100万ですよ、公債費。これでいきますと、逆ザヤになるということは、毎年これ借金返済のほうが増えているのですか。

○（藤田市長） 毎年増えています。

○（理事） 先ほど行財政改革と言われましたけども、毎年増えているのであれば、これ行

財政改革の数字としては上がってないですね。

○（藤田市長） 詳細にこれは説明をしなくちゃいけないのですが、資料を今持ち合わせておりません。確実に行財政改革につながる行政を運営していると確信を持っています。

○（理事） 市債の残高というのはどれくらいですか。

○（北橋総務部長） 26年度決算になりますけど、地方債残高が287億6739万6000円、これが総額です。これを決められた年数に基づいて毎年返済しています。それを返済額が、今支出のほうで言われました、公債費の28億円ということになります。これ28年度ですね。

それとともに、いろんな事業をしていきますよね、28年度以降。それで全部単費で、補助で、できればいいけど、やっぱりお金を借りて事業をしなくちゃいけないものもありますから、その28年度の借り入れが17億ということになります。

○（理事） それはわかります。287億の市債の残高というと、ほぼ年間の予算の分が残っている。私らには、やっぱり、借金で回していくっていうのは非常に危険。できるだけ借金を減らしていかないと歳出の公債費がすぐに10%を超えていくようになるのじゃないですかね。

○（藤田市長） 言われることは、本当に大事なことです。だからそれを1番に掲げている行財政改革、これに職員を挙げて一生懸命頑張っているということは、申し上げておきたい。数字だけ見ているいろいろ角度を変えるとどんなでも言い分があると思うのですが、4市1町を見比べてみて、あるいは他市と比べてみて、大体順当に行財政改革は進んでいるところというふうに思っています。今後もしっかり努力します。

○（事務局） 以上が、市の予算の概要説明でした。ありがとうございました。それでは最後に、懇談会の最後に藤田市長が御礼の御挨拶を申し述べます。

○（藤田市長） 本日は大変昼間のお仕事お疲れの中で、28年度第3回目の初めてのコミュニティでの移動市長室を山家地区で開催させていただきました。非常に、5年間の歩み、コミュニティの歩みですね、その中で、まだスタートしたばかりなのが5館くらいあるのですが、5年したらこんなにすばらしいコミュニティ活動になるのだなということを強く感じさせていただいて、非常に意義深い1回目のコミュニティでの移動市長室であったと感じました。

最初だからというので、非常に緊張しました。どういう風な意見が出るのか、どういう活動を報告されるのか、非常に緊張して聞くことができましたけれども、その緊張して聞

かせてもらった中で、共に、共助の部分を増幅しながら、共に作り上げていくまちづくりをしていかななくてはならないということにも気づかせていただきました。その中に西岡さんの言われた、歴史・文化を保存していく、そういう問題も含まれていくだろうと思っています。これは地域だけではできません。行政だけでもできません。共に、共助の心を持って、作り上げていくまちづくりがその歴史や文化を大切につくり上げていく礎になるだろうとこのように感じたところであります。

本当に皆さん方の熱心な取り組みに感銘を受け、今後とも市の行政としても学ぶべきところはしっかり学びながら、住みたい・住み続けたいという筑紫野市、あるいは、子や孫に誇れるような筑紫野市づくりに、ひかり輝く筑紫野市づくりに懸命にがんばってまいりますので、山家地区の今日ご参加の先輩たち、コミュニティということに関しての先導者としての今後とも御指導・御鞭撻をお願いし、私のお礼の言葉に代えさせていただきたいと思います。本日はまことにありがとうございました。